

株主・投資家の皆様へ

第108期 中間報告書

2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日

— Imagine, Desire and Create —

トップメッセージ

当社は、経営理念であります「**世界の人々の健康と豊かな生活文化に貢献する**」研究開発型企業として、これからもグローバルな展開を目指してまいります。

そのため、当社グループは、**基本理念「好奇心 そして行動 (Imagine, Desire and Create)」**のもと、総力を結集し、新たな課題にも積極的にチャレンジしながら、進化を続けてまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長



Q 2024年9月期を振り返り 事業概況についてお聞かせください。

A 当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業業績の回復を背景に、高い賃上げ率による所得環境の改善が行われるなど、景気持ち直しの動きが見られましたが、欧米における高金利の継続や中国経済の失速、中東地域における紛争の長期化など依然として先行きが不透明な状況にあります。

当社事業の主要分野であります食品業界におきましては、国内外における健康志向の高まりに伴い堅調に推移しましたが、物価高騰の長期化による節約志向の高まりなど、企業を取り巻く事業環境は厳しい状況が続いております。

このような環境の中で当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は、引き続き対処すべき課題として、以下を掲げ、企業価値の向上に取り組んでおります。

- | | |
|---------------|----------------|
| ①市場変化への対応 | ②販売の強化（グローバル化） |
| ③品質管理体制の維持・強化 | ④環境への取り組み |
| ⑤人材育成 | ⑥業務改善による全体最適化 |

Q 2024年9月期の業績についてお聞かせください。

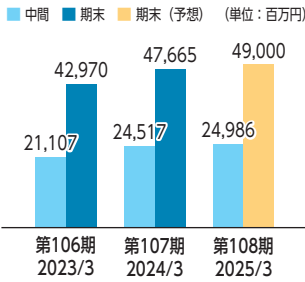
A 当中間連結会計期間の売上高は、249億86百万円（前年同期比1.9%増）となりました。
営業利益は、29億63百万円（前年同期比20.3%増）となりました。
経常利益は、30億41百万円（前年同期比14.4%増）となりました。
親会社株主に帰属する中間純利益は、22億52百万円（前年同期比30.8%増）となりました。

Q 中間配当金についてお聞かせください。

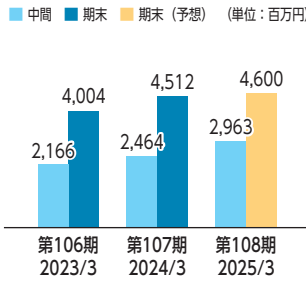
A 当社の中間配当金は、1株当たり10円として12月3日にお支払いさせていただきます。

決算ハイライト

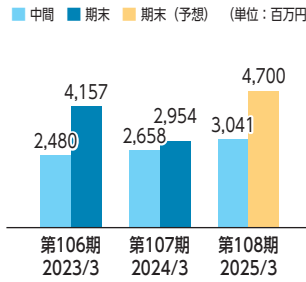
売上高



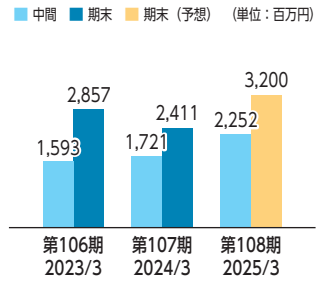
営業利益



経常利益

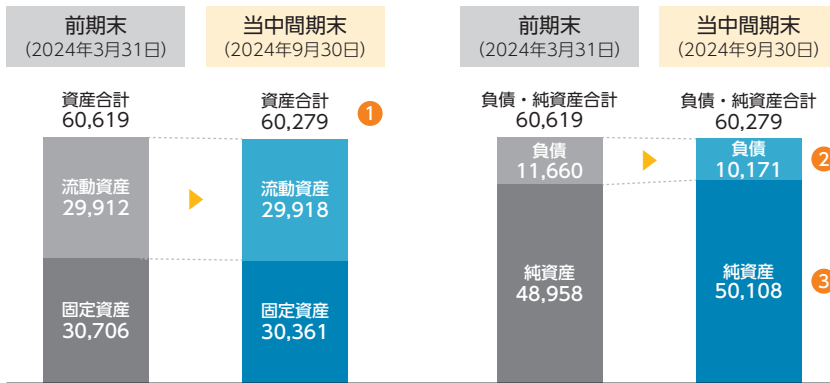


親会社株主に帰属する中間(当期)純利益

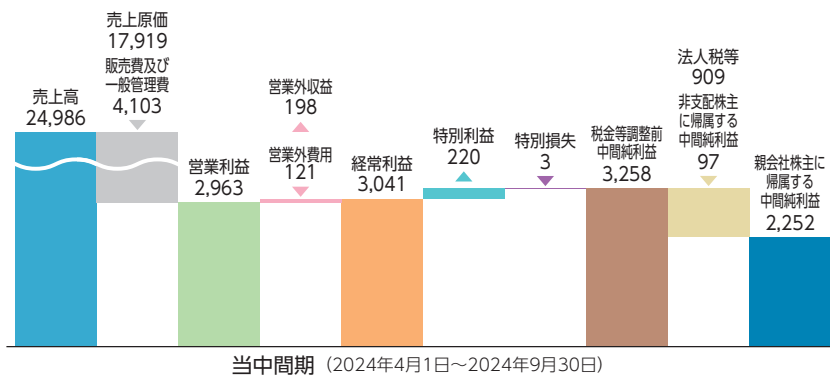


財務ハイライト

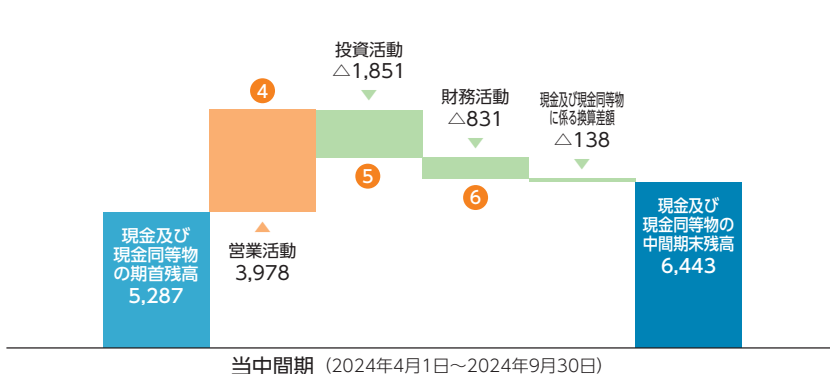
■ 連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)



■ 連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



Point

1 資産合計

総資産が前期末に比較して3億39百万円減少して602億79百万円となりました。主な資産の変動は、現金及び預金の増加11億39百万円、受取手形及び売掛金の減少4億22百万円、商品及び製品の減少3億10百万円等です。

2 負債合計

前期末に比較して14億89百万円減少して101億71百万円となりました。主な負債の変動は、未払法人税等の増加1億7百万円、支払手形及び買掛金の減少3億50百万円等です。

3 純資産合計

前期末に比較して11億49百万円増加して501億8百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益22億52百万円の計上、その他有価証券評価差額金の減少1億12百万円等によるものです。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間期における営業活動により39億78百万円(前年同期は25億69百万円の資金の増加)の資金を獲得いたしました。その主な理由は、税金等調整前中間純利益が32億58百万円等による資金の増加、仕入債務の減少2億20百万円等による資金の減少によるものであります。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー

当中間期における投資活動により18億51百万円(前年同期は10億31百万円の資金の減少)の資金を使用いたしました。その主な理由は、定期預金の払戻による収入3億34百万円等によるものであります。

6 財務活動によるキャッシュ・フロー

当中間期における財務活動により8億31百万円(前年同期は19億30百万円の資金の減少)の資金を使用いたしました。その主な理由は、短期借入れによる収入58億円、短期借入れの返済による支出58億円、配当金の支払額7億63百万円によるものであります。

セグメントの状況

ニュートリション事業

事業内容

医療、健康食品及び飲料業界等にカテキン（緑茶抽出物）、テアニン（機能性アミノ酸）、水溶性食物繊維等の機能性食品素材、ミネラル製剤、ビタミン製剤等を製造、販売しております。



売上高

71億35百万円

前年同期比

24.7%増 ↑

水溶性食物繊維は、アジア市場及び欧米市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

カテキンは、国内市場及び欧米市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

ミネラル製剤は、アジア市場及び欧米市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

テアニンは、国内市場は減少しましたが、米国市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

この結果、売上高は、71億35百万円（前年同期比24.7%増）、営業利益は、12億29百万円（前年同期比27.5%増）となりました。

インターフェイスソリューション事業

事業内容

乳製品、飲料、菓子、パン、加工油脂等の業界、及び化粧品、トイレタリー業界等に、乳化剤等の品質改良剤を製造、販売しております。



売上高

71億55百万円

前年同期比

10.9%増 ↑

一般食品用途は、国内市場及びアジア市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

化粧品、トイレタリー用途は、国内市場、アジア市場及び欧米市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

飲料用途は、国内市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

この結果、売上高は、71億55百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益は、10億37百万円（前年同期比26.6%増）となりました。

ナチュラルイングリディエント事業

事業内容

乳製品、飲料、菓子、パン、総菜、即席めん、農産加工業界等に、鶏卵加工品、たん白素材、即席食品用素材、農産加工品等の食品素材、品質改良剤、安定剤等を製造、販売しております。



売上高

106億13百万円

前年同期比

13.5%減 ↓

鶏卵加工品は、調味料用途等向けの液卵、めん用途、調味料用途等の粉末卵が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

即席食品用素材は、海外向け用途が増加しましたが、国内向け用途が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

安定剤は、惣菜用途が増加しましたが、飲料用途、デザート用途及び冷菓用途が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

この結果、売上高は、106億13百万円（前年同期比13.5%減）、営業利益は、6億70百万円（前年同期比2.4%増）となりました。

トピックス 1 第2回 健康フォーラム開催 次世代の健康アプローチを考える

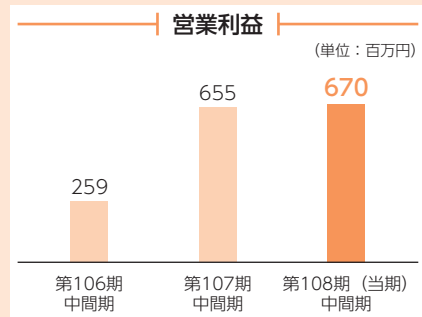
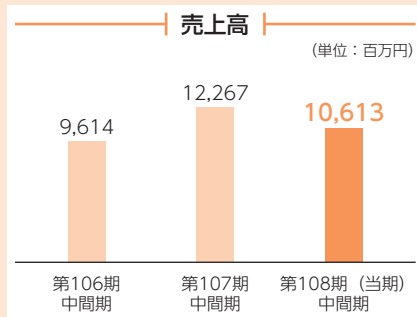
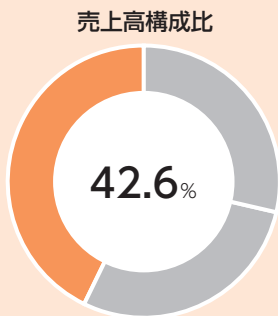
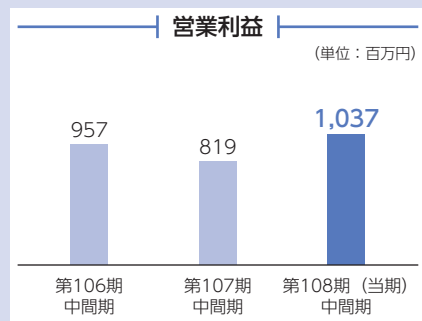
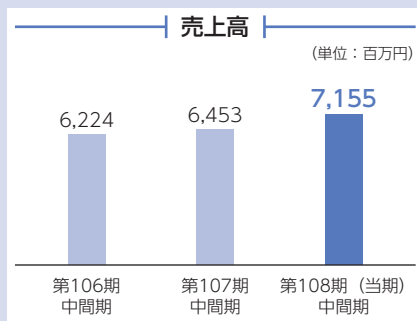
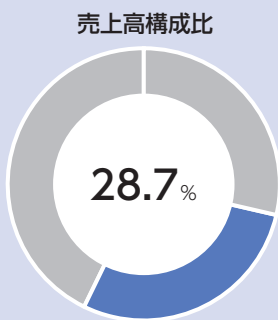
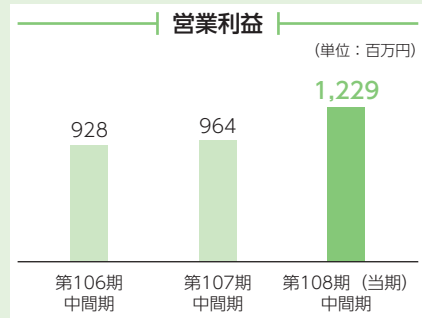
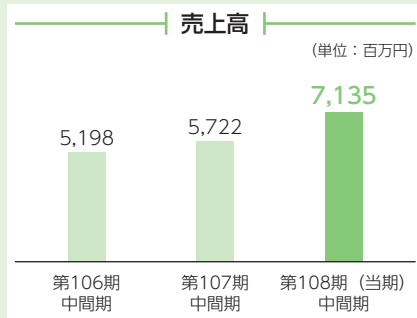
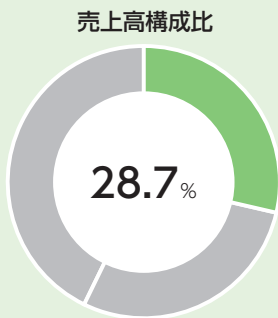
食品業界だけでなく、異なる業界も交えた共創のあり方を提案



2024年7月26日、東京国際フォーラム ホールB7にて168社、434名の参加者を集め、第2回健康フォーラム（主催 太陽化学株式会社、共催株式会社セブン-イレブン・ジャパン）が開催され、「食産業とヘルステック、パーソナルヘルスレコード（以下、PHR）活用と健康ビッグデータからみる食の未来」をテーマとした経産省の方針説明や流通業界の取り組み紹介、アカデミアによる学術講演などが行われました。

ヘルステックが進化し、PHRの活用が進むことにより食や健康のあり方が変わろうとしています。

食品メーカーのみならず、健康産業やヘルステック、流通、商社など多様な業種が参加するなか、経産省からはPHRの今後、セブン-イレブンからは健康な食の開発と未来の展開、そしてアカデミアとして、東京大学の阿部先生、京都府立医科大学の内藤先生にも登壇いただき、これからの共創のあり方に向けた議論が繰り広げられました。



その他事業

料理飲食等の事業を行っております。

売上高は、81百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益は、26百万円（前年同期比4.2%増）となりました。

トピックス 2 能登半島地震への支援物資で感謝状

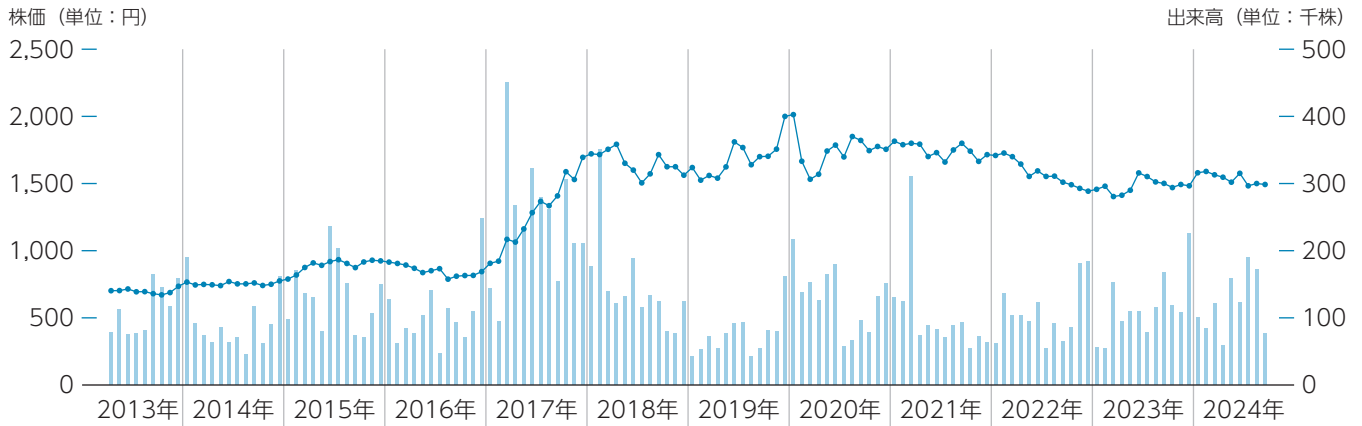


2024年1月に起きた能登半島地震で、日本栄養士会より被災地に展開しているJDA-DAT（災害医療チーム）から、弊社が開発・販売している水溶性食物繊維「サンファイバー」の提供要請があり、支援物資として供給いたしました。

今回の支援に対して、2024年6月23日（日）に開催された公益社団法人日本栄養士会 定時総会にて感謝状授与の式典が行われました。

物資供給などを通じて、今後も被災地支援を続けてまいります。

株価・出来高の推移



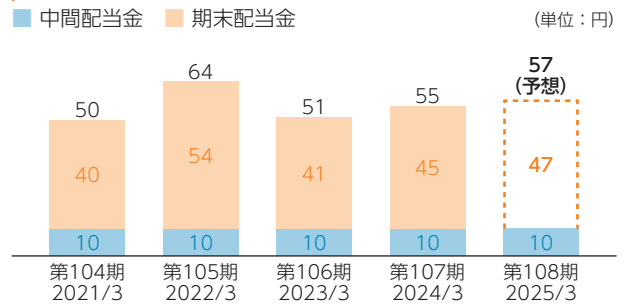
株主還元情報

剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最も重要な課題のひとつに位置づけております。

利益配分は、安定的な基準配当年間20円に、実績に応じた利益還元分を加え、連結による配当性向30%を目処として継続的に行うことと、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な将来に備えた内部留保の充実を図ることを基本方針としております。

1株当たり配当金額の5年間の推移



株主様へのご優待

～ 特別価格販売のご案内 ～

株主様の日頃のご支援にお応えすべく、当社グループ会社であります株式会社タイョーラボのヘルスケア商品のご紹介、また、更にお求め易い特別価格に改定し販売させていただきますので、お引き立てを賜りますようよろしくお願い申し上げます。



株式会社タイョーラボ サプリメント商品の一例
＜水溶性食物繊維 サンファイバー＞

株式会社タイョーラボのホームページよりご購入いただけます。

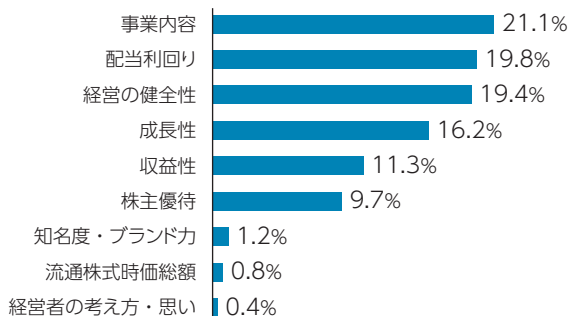
<https://www.taiyo-labo.jp/>



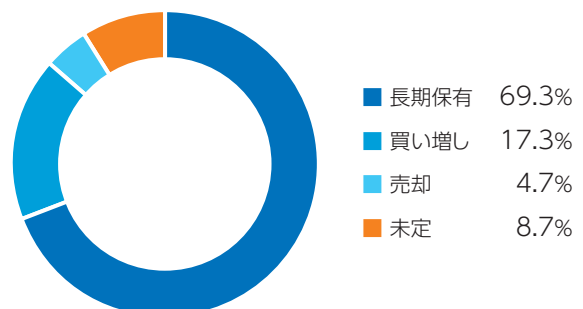
株主アンケートのご報告

アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。株主様から寄せられたご意見を一部ご報告いたします。

Q 当社に投資する決め手となったポイントは何ですか？



Q 当社の株式に対してどのような方針ですか？



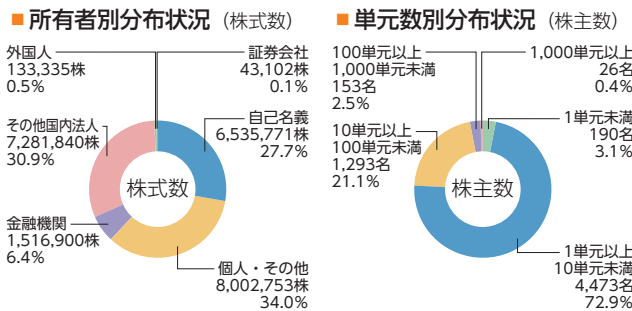
会社概要

会社名 太陽化学株式会社
英訳名 TAIYO KAGAKU CO.,LTD.
設立 1948年1月28日 (創立/1946年5月)
資本金 7,730,621,500円
従業員 886名 (この他臨時従業員234名) / 連結
売上高 476億65百万円 / 連結
本社所在地 四日市本社
〒512-1111 三重県四日市市山田町800番
東京本社
〒105-0013 東京都港区浜松町一丁目6番3号

株式の状況

発行可能株式総数 90,000,000株
発行済株式総数 23,513,701株
株主数 6,135名

分布状況



製造・販売事業

当社グループの事業は、食品用乳化剤、安定剤、各種鶏卵加工品、即席食品用素材、農産加工品、栄養機能食品、化粧品原料等の製造と販売を主たる目的としております。

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
長陽物産有限会社	2,283	13.44
向陽興産株式会社	1,016	5.98
太陽化学取引先持株会	960	5.65
有限会社和向	760	4.47
一般財団法人食品分析開発センターSUNATEC	549	3.23
株式会社三十三銀行	437	2.57
株式会社百五銀行	437	2.57
太陽化学従業員持株会	309	1.82
山崎長徳	291	1.71
新菱冷熱工業株式会社	275	1.62

※1 当社は、自己株式6,535,771株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。
※2 持株比率は、自己株式を控除して算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

株主メモ

株式の基本情報について、
当社ホームページに掲載しております。
アクセスをご確認ください。



<https://www.taiyokagaku.com/ir/stock/>

ホームページのご案内

各種の最新情報や、詳しい製品情報は当社のホームページに掲載しております。また、CSRサイトから、CSRレポートもご覧いただけます。ぜひアクセスしてください。

<https://www.taiyokagaku.com/>



株主の皆さまの
声をお聞かせください

コエキク

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>
アクセスキー 2902HrCd

スマートフォンから
カメラ機能で
QRコードを読み取り

QRコードは株式会社アンソウェア
の登録商標です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクスが提供する
「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」
✉ koekiku@pronexus.co.jp